

2020 年度京都大学経済学部

3 年次編入学試験問題

経 済 学

- ※ 問題は 3 問あります。
2 問を選択して解答してください。
- ※ 解答は 1 問につき、1 枚の解答用紙
を使用すること。

間違っって解答した場合は無効となります。

第1問

以下の問い全てに答えなさい。

1. 以下の問いに答えなさい。

ある家計の効用関数が $U = x y$ で与えられるとする。所得を 20 万円、X 財の価格を 1,000 円、Y 財の価格を 2,000 円とする時、効用最大化をもたらす X 財の最適消費量 x^* はいくらか。また、Y 財の最適消費量 y^* はいくらか。

2. 以下の問いに答えなさい。

同じ財 X を生産する企業 1、企業 2 からなる複占市場において、X の需要関数が、

$$P = 40 - (Q_1 + Q_2)$$

P: 財 X の価格、 Q_1 : 企業 1 の生産量、 Q_2 : 企業 2 の生産量

で示されるとする。また、総費用関数は企業 1、企業 2 共に、

$$TC = 4 Q_i \quad (\text{ただし、} i = 1, 2)$$

で示されるとする。この時、クールノー均衡における企業 1、企業 2 の生産量はいくらか。

3. 以下の問いに答えなさい。

情報の非対称性とは何かを簡単に説明し、どういった資源配分の非効率性が起きるのか吟味検討せよ。その際、以下の 2 つの用語を必ず用いること。

「モラル・ハザード」「アドバース・セレクション」

4. 以下の問いに答えなさい。

経済人(ホモエコノミカス)の仮定とは何かを簡単に説明し、批判的に吟味検討せよ。その際、以下の 2 つの用語を必ず用いること。

「限定合理性」「バイアス」

第 2 問

以下の問題すべてに解答しなさい。

1. 物価指数の計算方法に関する以下の設問に答えなさい。

(1) パーシェ指数とラスパイレス指数について簡潔に説明しなさい。

(2) パーシェ指数とラスパイレス指数はどのように乖離する傾向があるか。その理由も合わせて説明しなさい。

2. 総需要・総供給モデルについて考える。消費関数は $C(Y - T) = 10 + 0.5 \times (Y - T)$ 、投資関数は $I(r) = 50 - 1000 \times r$ 、政府購入は $G = 30$ 、租税は $T = 30$ 、名目貨幣供給量は $M = 15$ 、実質貨幣需要関数は $L(r, Y) = Y - 1000 \times r$ 、自然生産量は $Y^n = 55$ 、短期総供給曲線は $P = P^e + (Y - Y^n)/10$ で与えられる。ただし、 Y は生産量、 r は利子率、 P は物価水準、 P^e は期待物価水準である。物価水準 P は正であるとする。

このモデルに関する以下の設問に答えなさい。

(1) 総需要曲線を求めなさい。

(2) $P^e = 0.5$ の場合の短期均衡における物価水準と生産量を求めなさい。

(3) 長期均衡における物価水準と生産量を求めなさい。

(4) 当初長期均衡にあるとして、名目貨幣供給量の 1 回限りの恒久的な増加が起きたとしよう。適応的期待形成と合理的期待形成のそれぞれのケースについて、物価水準と生産量に与える影響を説明しなさい。

3. 政府部門を含む離散時間のソロー型経済成長モデルについて考える。生産関数は $Y_t = K_t^\alpha L_t^{1-\alpha}$ 、人口成長率は $(L_{t+1} - L_t)/L_t = n$ 、消費関数は $C_t = (1 - s)Y_t$ 、政府支出関数は $G_t = gY_t$ 、資本の動学は $K_{t+1} - K_t = Y_t - C_t - G_t - \delta K_t$ で与えられる。ただし、 Y_t は t 期の生産量、 K_t は t 期の資本量、 L_t は t 期の人口、 C_t は t 期の消費量、 G_t は t 期の政府支出を表し、 $\alpha \in (0, 1)$ 、 $n > 0$ 、 $s \in (0, 1)$ 、 $g \in (0, s)$ 、 $\delta \in (0, 1)$ はパラメータである。

このモデルに関する以下の設問に答えなさい。

(1) 生産関数の 1 次同次性について説明した上で、このモデルの生産関数がそれを満たすことを示しなさい。

- (2) 1人当たり資本量 $k_t \equiv K_t/L_t$ の動学を表す差分方程式を求めなさい。
- (3) 1人当たり資本量の定常状態値を求めなさい。
- (4) 当初定常状態にあるとして、 g の1回限りの恒久的な上昇が起きたとしよう。このとき、1人当たり生産量 $y_t \equiv Y_t/L_t$ の成長率は、新たな定常状態に到達するまでの移行過程と新たな定常状態においてどのような動きをするのか説明しなさい。
- (5) 定常状態における1人当たり消費量 $c_t \equiv C_t/L_t$ を最大化する貯蓄率を求めなさい。

第3問

以下のすべての問いに答えなさい。

1. 貨幣がもつ3つの機能をあげて、それぞれについて説明しなさい。
2. 貨幣論には、大きく分けて「商品貨幣論」と「信用貨幣論」がある。それぞれについて説明しなさい。
3. 商業手形は信用貨幣の基礎的形態であるが、貨幣としてはいくつかの限界がある。どのような限界があるかを説明しなさい。
4. 民間銀行が発行した銀行手形（兌換銀行券）は、商業手形のもつ限界を乗り越えた。どのようなしくみで乗り越えたかを説明しなさい。
5. 19世紀には、銀行券の発行権限を中央銀行に集中させる「発券集中」が進んだ。なぜ「発券集中」をしなければならなかったかを説明しなさい。
6. 20世紀前半には、中央銀行券の金への兌換を停止する「不換化」が進んだ。なぜ「不換化」をしなければならなかったかを説明しなさい。
7. 「マネーストック」あるいは「マネーサプライ」と呼ばれる、現代の貨幣の総量は、大きく分けて「現金通貨」と「預金通貨」とからなる。現代の日本における「現金通貨」と「預金通貨」それぞれのだいたいの金額を答えなさい。（「預金通貨」は、定期性預金などの「準通貨」を含まないものとする。）